

宿縁

六月号

納得して生き
納得して死んで
行けますか



本年三月二十九日から五月二十一日まで、五期三十日間にわたり京都御本山で「親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要」が勤められました。五月八日の法要に当寺住職ほか寺族、門徒十二名で参詣を致しました。

こうした記念の法要は五十年に一度勤められるものですから、参詣できる可能性は一生に一度のご縁といわれます。考えてみると、人生の歴史は昔も今もこれからも絶えず変わりゆく流れの中にあつて

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗
本願寺派
中原寺

TEL 〇四七―三七二一―〇二九二
FAX 〇四七―三七二一―〇二六二

頼りとするものは崩れ去り、一生はその変化に常にうろたえながら、もたえ苦しんで最後は死にゆく存在です。

その苦悩を超えて生きていく確かな道を教えてくださるのが仏法です。仏法とは真理(まこと)に目覚めたほとけさまから迷い苦しむことから自ら抜け出すべを知らないこの私への呼びかけ、願いなのです。お経とはその仏さまから私たち一人ひとりへの願いがかけられたお手紙だと言えます。だからお経は読むものではなく聞くもので。その聞く場がお聴聞です。その縁を結ぶ所がお寺で開かれているご法座であり、法事等の場であります。

こうした場をおろそかにする生き方、つまり日々の暮らしに気をとられている限りの人たちには、お経は自分にとって無縁です。お経は死んだ人へ読んでもらうものくらいにしか思っていない人は、このことがわかっていないということ。このたびの親鸞聖人御誕生850年とその親鸞聖人が人生の苦難から抜け出す教を示されたお書物(顕浄土真実教行証文類)を明らかにされてから800年にあたる法要は、その教えに出遇うことができた人たちのご恩報謝の営みにほかありません。同じ時代に生きられた歴史上で有名な人物は平清盛とか鎌倉幕府を開いた源頼朝たちです。これらの人たちは今の時代を生きる私

に何を残してくれたでしょうか？苦悩を超える道を教えてくれているのでしょうか？

親鸞聖人は、もし人生の師である「本師源空(法然)いままさは、このたびむなしく過ぎなまし」とご和讃に詠まれています。またその源空聖人は四十三歳に到って一切経を五度もひもとかれた末に、およそ五百年前中国唐の時代の僧、善導大師が述べられた言葉「一心に弥陀の名号を念じて、行住坐臥に、時節の久近を問わず、念々に捨てざる者は、これを正定の業(正しくあらゆる衆生の浄土往生が決定する行為)と名づく、かの仏願に順ずるが故に」との金言に心揺り動かされ、念仏道のまことに目覚められたといえます。特に「かの仏(阿弥陀仏)の願いに順ずるがゆえに」という五文字の中に、そこに凡夫苦悶の人生から離脱できる力の無い者がさとの浄土に生れ得る道理を見出されました。法然聖人に救いの衝撃をもたらした善導大師は、「われ何故、尊い仏法を説かれたお釈迦さまの時代に生まれることができなかったのか！」と、しばしば慟哭したといわれています。

煩惱にまなこさえられて
撰取の光明みざれども
大悲ものうきことなくて

つねにわが身を照らすなり (高僧和讃)
(煩惱に眼がさえぎられて、阿弥陀如来のお救いの光を見ることができないが、如来の大きなお慈悲は常に私を照らしてくださっている。)

光明を見るとはいったいどのようなことでしょうか。私たちが光を見たと言う時の多くは、光源を見てのことです。すなわち、太

陽や月、また、ローソクの火や電灯を直接見て言っているのです。したがって、撰取の光明を見るということは光源としての阿弥陀如来を見ることであると云えます。しかし、残念ながら遠い過去より我が欲望に縛られ、周囲の人々の苦しみすらも目に入らない煩惱の身である私たちには、如来を見ることなどまったく不可能なのです。

だから私たちができることは、如来の本願(我かならず汝を救うとの願い)が建てられたいわれをお経に尋ねて、われすでに名号(南無阿弥陀仏)となつて仏に抱かれていた身の幸せを喜び、念仏を申しながら世のため人のために報謝の生活をさせていただくことなのです。

喜びとは、人の世に生まれた意味とここに生きる意味を確かに見出すことでしょうか。誰もが、この私がなぜこの世に生まれたのか？生活する意味は何か？生きる意味は何か？わかりません。受けた生命は子孫につなぐ為なのか？立派になつて少しでも出世し偉くなる為なのか？それらのために健康で長生きしたいのか？

わが身の境遇を素直に知れば、決してそのようなことで意味づけできないでしょう。

親鸞聖人は「つつしんで浄土真宗の教えを考えると、一つには往相、二つには還相なり。」と表現されました。往相とは、死は滅びではなくお浄土に生まれ往く人生、つまり如来さまを親として生きる人生への変換であり、還相とは、仏の生命を得てこの世に還り来て、他の衆生を教化して仏道に向かわせるといふ利他力のまことの意味を示されました。仏法に遇うことは急げ、急げ！です。

【寺灯雑記】

○力をあわせてお仏具磨き・清掃奉仕

5/6

ゴールデンウィーク真っ只中のこの日、お仏具磨きと清掃奉仕が行われ、三〇人ほどがご参加くださいました。

初夏を思わせる気温で気持ち良い汗を流しながら、お寺の隅々まできれいにしていたできました。

お昼は裏山で採れた「タケノコご飯」をいただき、自然の恵みを堪能しました。

○本山の慶讃法要に参拝

5/8~10

京都の御本山・西本願寺にて勤修されていた親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要のため、千葉組の団体参拝に参加し、中原寺より十二名が参拝してまいりました。

御影堂(親鸞聖人の御木像が安置)は、全国より集まったご門徒さんで満堂となり、お念仏の音が響き渡りました。厳かな雰囲気ながら、雅楽の演奏により法要がスタートし、この度の法要のために作成された「新制御本典作法」をお勤めました。

また、聖人御誕生の地である日野誕生院、法界寺やお得度された青蓮院にも参拝、京都国立博物館にて親鸞展の見学と、あらためて親鸞さまのご遺徳を偲ぶご縁となりました。

その他にも、姫路城や大阪津村別院に明石海峡大橋など見どころいっぱい、夜は琵琶湖湖畔と有馬温泉に宿泊し、他寺から参加のかたと懇親を深めるなど、たくさんの思い出を胸に帰路につきました。



親鸞聖人御誕生850年 立教開宗800年慶讃法要 参拝記念

○宗祖降誕会・永代経法要をお勤め

5/21

毎年春の恒例行事である宗祖親鸞聖人降誕会・永代経法要が初夏を思わす好天のもと勤まりました。法要に先立ち、婦人会会員による献灯・献花がなされ、法要に文字通り華を添えていただきました。

ご法話は昨年引き続き、ケネス田中師にお話しいただきました。ダジャレやオヤジギャグを交えながら、思い通りにならない日々の生活のなかで、仏教を人生の縦軸に据え、「満足を知ること」、「すべてのものに感謝する生活」の重要性についてお説きくださいました。



【ブツダの教え 「お経」のことば】

「偏った見方」

この世のすべてのものは、みな縁によって現れたものであるから、もともと違いはない。違いを見るのは、人びとの偏見である。

大空に東西の区別などないのに、人びとは東西の区別をつけ、東だ西だと執着する。数はもともと、一から無限の数まで、それぞれ完全な数であって、量には多少の区別はないのであるけれども、人びとは欲の心からはからって、多少の区別をつける。

もともと生もなければ滅もないのに、生死の区別を見、また、人間の行為それ自体には善もなければ悪もないのに、善悪の対立を見るのが、人びとの偏見である。

仏はこの偏見を離れて、世の中は空に浮かぶ雲のような、また幻のようなもので、捨てるも取るもみな空しいことであると見、心のはからいを離れている。

『華嚴経 夜摩天宮品』『楞伽経』

【六月の法要・法座・行事】

○婦人会法座(御文章第四帖十一通)

※六月三日(土) 午後一時 前住職

○壮年会法座

※六月十一日(日) 午後三時

御文章解説〇 住職

○子育てサロン(パンダっ子)

※六月十二日(月) 十一時~十四時

○壮年会 王子散策

※六月十四日(水)

築地本願寺王子布教所参拝、王子飛鳥山公園(渋沢栄一記念館)散策、王子駅付近で懇親会。

*参加ご希望のかたはお寺までご連絡ください。

○常例法座(仏さまのお話)

※六月十八日(日)午後一時

講師:前田寿雄師(武蔵野大学教授)

○親鸞セミナー(浄土文類聚鈔を学ぶ)

※六月二十四日(土) 午後二時

○婦人会法座

※七月一日(土) 午後一時

○千葉組仏教婦人連盟 公開講座

※七月二日(日)十四時~十六時

場所:千葉県教育会館大ホール

千葉市中央区中央4-13-10

講師:浄瑠璃 親鸞様のご生涯と

「金子みすゞ物語」の二本立て

参加費:無料、先着500名・自由席

*どなたでも予約なしで自由に参加いただけます。

ただけます。

【六月の掲示板のことば】

「誰にも世話をかけずに死んでゆきたい」

馬鹿なことを言うな!